



新渡戸記念 中野総合病院 だより

Nitobe Memorial Nakano General Hospital

8月号

平成30年8月1日号

東京医療

住所 東京都中野区中央四丁目59番16号

TEL 03-3382-1231 (代) 夜間受付 03-3382-9991

ホームページ <http://www.nakanosogo.or.jp> E-mail soumu@nakanosogo.or.jp

第350号
発行人/理事長 入江 徹也
発行責任者/総務課長 横井 悟

神経のあらゆる疾患に対応します！

身体の動きに異常を感じたらご相談ください

神経内科部長 兼 脳卒中科部長 融 衆太

神経内科は、脳、脊髄、末梢神経、筋肉の病気を診ます。症状としては、しびれやめまい、うまく力が入らない、歩きにくい、ふらつく、つっぱる、ひきつけ、むせ、しゃべりにくい、ものが二重に見える、頭痛、勝手に手足や体が動いてしまう、もの忘れ、意識障害などです。

当院神経内科は総勢7名、うち神経内科専門医が4名、総合内科専門医が3名おり、脳卒中から神経変性疾患まで、あらゆる神経疾患に対応しています。神経疾患でお困りの方は、ぜひ当院神経内科にご相談ください。

4月に赴任しました。複数の救急病院で脳梗塞、てんかんなど神経救急疾患の診療に携わってきました。「断らない救急医療」を目標に努めていきたいと思えます。身体の動きに異常を感じたら、ご相談いただけると幸いです。

銭谷 怜史

4月から中野総合病院で勤務し、外来、病棟で神経疾患や内科的疾患の診察と治療を担当しています。地域の皆さまのお役に立てるよう日々診療にあたっています。

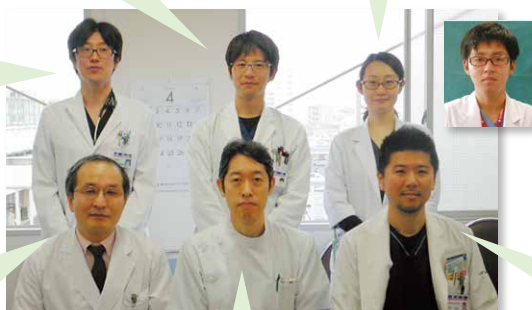
町田 容子

8月から勤務開始となります。当院は研修医1年目にお世話になって以来、2回目の勤務となります。2年前と建物は変わりませんが、一般病院としては非常に珍しい脳の研究室が開設されるなど中身は進化しています。患者さんに良質な医療を提供できるように、進化した新渡戸記念中野総合病院で頑張りたいと思います。

天野 稜大

地元中野区出身の神経内科医です。愛着ある地域の皆さまの健康面のサポートに、少しでもお役に立てるよう努めていきます。神経疾患に限らず、風邪、体調不良から生活習慣病まで幅広く対応いたします。

飯嶋 真秀



神経疾患は生前の診断が難しく、御遺体を解剖させていただいて診断が確定することも少なくありません。不幸にして亡くなられた場合でも、こうした検証をさせていただくことで、医療のレベルを保ち、将来の研究にも役立てばと、院内の脳研究室で脳標本を顕微鏡で観察しています。

内原 俊記

当院に赴任して13年目です。神経の病気に関連するどんな症状でも構いませんので、お気軽にご相談ください。僕自身は日本認知症学会専門医として、認知症やパーキンソン病の診療を多く行っており、もの忘れ外来も担当しています。一人でも多くの患者さんのお役に立てるよう、今後も頑張ります。

融 衆太

医師20年目、当院は3年目になります。免疫性神経疾患、特に多発性硬化症・視神経脊髄炎については多数の診療実績・経験があり、最新のエビデンスに基づき、患者様のライフスタイルにあった診療を提供しています(毎週金曜日午後予約制専門外来を開いています)。

横手 裕明



地域ケアシステムの構築に向けて 病診連携の会を開催しました

去る6月11日(月)に中野サンプラザにおいて、「第5回新渡戸記念中野総合病院 病診連携の会」を開催いたしました。お忙しいなか、中野区医師会の先生方をはじめとする多くの近隣医療機関・施設の皆さまにご参加いただきました。医師・看護師だけでなく、さまざまな職種の方々より直接ご意見をうかがうことができ、大変有意義な会となりました。

当院は、かかりつけ医の先生方との連携により、急性期医療の充実を図り、その後の療養や在宅医療に関わる方々との連携を深め、地域ケアシステムの構築に向けて地域医療連携の強化に努めて参ります。



第69回 通常総代会を開催しました

去る6月21日(木)の午後1時半より、中野サンプラザ7階研修室において、「第69回通常総代会」を開催しました。第1号議案の平成29年度の「事業報告」と、第2号議案の平成30年度の「事業計画」



は、入江理事長並びに担当理事から報告・提案がなされ、いずれも異議なく承認となりました。続く「定款改正」「規約等の改正」などの4議案についても担当理事から提案がなされ、いずれも全員賛成で承認いただきました。最後に役員選挙管理委員長から「役員改選」についての報告がなされ、17名の理事・監事が選任されました。

今回の総代会は、例年に比べ多くの議案がありました。総代の皆さんの慎重なる審議によって、午後3時前に全議案が滞りなく終了しました。今年度も厳しい医療情勢のなか、総代や組合員の皆さまのお力をお借りして、業務に邁進して行く所存ですので、どうぞよろしく願いいたします。

ご存じですか？

**新渡戸記念
中野総合病院の
エンブレムです**



本院の印刷物等に使用されているこのマークは、エンブレム(記章)です。平成27年10月に病院名を「新渡戸記念中野総合病院」に変更したのを受け、東京医療生活協同組合に勤務する職員およびその家族にデザインを募集。応募作品の中から選ばれました。

中心に重なる「N」の文字は、新渡戸(Nitobe)と中野(Nakano)の頭文字を意味します。その文字を取り囲む稲穂は新渡戸稲造先生をイメージしたものです。こうべを垂れる稲穂が医療人としてあるべき誠実・謙虚・思いやりを表し、伸びゆく稲は本院が地域の中で成長していく姿をイメージしています。緑色は本院のイメージカラーです。

第19回 新渡戸記念中野総合病院 区民健康講座のお知らせ

テーマ **高齢者の貧血について**

日時 平成30年9月29日(土) 午後2時～3時

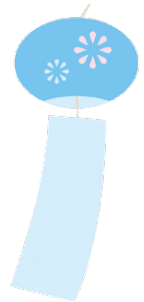
講師 新渡戸記念中野総合病院 血液内科部長 秋山 秀樹

場所 東京都生協連会館3階会議室(中野区中央5-41-18)

定員 50名(定員になり次第、申し込みを締め切らせていただきます)

参加申し込み先 患者支援センター 連携担当 ☎03-3382-1231(内線211)
または総合受付④番窓口

どうぞ奮ってご参加ください!



8月の小児救急体制



新渡戸記念中野総合病院では、中野区並びに中野区医師会のご協力を得て、小児の初期(1次)救急として「**準夜間小児初期救急医療**」を救急外来で実施しています。

一般診療所の診察時間が終わった後、お子さまが急病の際には、下記の**夜間受付電話**にご連絡のうえ、ご来院ください。15歳以下のお子さまを対象に、小児科医が診療を行います。

*血液検査、点滴等の処置、入院等を必要とする場合は他病院を紹介します。

8月1日から31日までの準夜間小児初期救急医療体制は下記の通りです。なお、都合により医師の変更もありませんので、ご了承ください。ご不明な点は、下記夜間受付にお問い合わせ願います。

受付時間 毎日午後**6時30分**～午後**9時45分**

診療時間 毎日午後**7時**～午後**10時**

夜間受付 ☎**03-3382-9991**

8月準夜間小児初期救急担当医

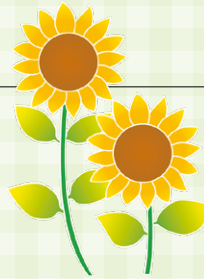
日	月	火	水	木	金	土
			1 村杉 寛子	2 堤 範音	3 清水 泰岳	4 保崎 明
5 右田 王介	6 小須賀 基通	7 高梨 栄	8 久利 由美	9 木村 将裕	10 亀井 宏一	11 亀井 宏一
12 清水 泰岳	13 小須賀 基通	14 高田 功二	15 右近 智雄	16 堤 範音	17 右田 王介	18 清水 泰岳
19 亀井 宏一	20 小須賀 基通	21 千葉 智子	22 宇都 ちひろ	23 木村 将裕	24 清水 泰岳	25 清水 泰岳
26 右田 王介	27 小須賀 基通	28 細谷 直人	29 佐和田 哲也	30 堤 範音	31 右田 王介	

新渡戸記念を支える

職場紹介

医療の移り変わりや役立つ情報を集めています 統計資料室

統計資料室室長 大鷲 雅昌



統計資料室は、平成28年10月1日に新設された部署です。業務内容は、統計情報の収集・編集や保全に関する業務をはじめ、統計の普及・啓発などの業務を担当しています。当院は、昭和7年(1932年)に故 新渡戸 稲造博士・故 賀川 豊彦先生が「東京医療利用組合」として創立された、日本で最初の組合病院です。このような歴史ある当院の創立当時の医療環境、その後、国民皆保険制度が制定され、そして現在に至るまでの医療の移り変わりを、統計資料を通じて知ることができます。

このように、東京医療の歴史や身近な統計情報を継続的にまとめ、次世代に向けて誰もが自由に閲覧できるような、統計資料室を目指しています。



新渡戸 の 言葉

昭和7年5月27日、「東京医療利用組合」の設立許可が得られ当院が創立しました。この年は5.15事件のあった年で、当時東京府知事であった藤沼庄平氏が警視總監の就任直前に尽力し、新渡戸稲造博士が初代組合長、賀川豊彦氏が専務理事の体制でスタートしました。中野に住む地元の方々のためのこの仕組みは、のちの「国民皆保険制度」の魁きぎとなったものです。

右の言葉は新渡戸先生が東京医療利用組合発起人会で挨拶された時の記録ですが、「衣服哲学講義録」(新渡戸稲造全集第9巻)でも講義の様子が伝えられている如く、口述筆記ながら新渡戸先生の高潔でユーモアを交えた格調高い肉声を聴き、警咳けいがいに接する感があります。新渡戸先生が当院へ託した志のヒントがここに語られています。

新渡戸記念中野総合病院副院長 山根 道雄

東京医療利用組合発起人会挨拶

「…私ども発起人はバイオニアでありま
す。バイオニアすなわち開拓者の精神の
乏しいことが日本人の大欠陥であります
から私どもは金力がなくとも、正しい動
機によってなされたものは、かように立
派に成功するということを、天下にしめ
さなければなりません。」

新渡戸 稲造